

3 特集

生徒が輝く学校づくり — 高校の特色化・魅力化 —

25 For School Section

- 26 新課程に向けて描く「学校教育デザイン」
大分県立大分雄城台高校
- 30 — 疑問や課題を解決！ 実践につながる！ — 新課程レポート
秋田県立湯沢高校
- 34 指導変革の軌跡
福岡県立戸畑高校
- 38 輝く学年団を訪ねて
岡山県立岡山工業高校 3学年団
- 42 学校危機管理 基礎講座
テーマ 保護者対応

45 For Teacher Section

- 46 発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践
- 46 英語 山梨県立青洲高校 飯室雄大
- 50 情報 愛知県立高蔵寺高校 田中 健
- 54 SDGsの視点で見る大学の学び
- 54 解説 目標12 つくる責任つかう責任
目標16 平和と公正をすべての人に
- 56 大学の学び 目標12 立命館大学 生命科学部 生物工学科
生物機能工学研究室
- 58 目標16 東京外国語大学 国際社会学部 国際関係コース
篠田英朗研究室
- 60 これからの進路指導のための 世の中トレンド解説
トレンド・ワード ライフシフト
- 64 誌上で見学 学びのnext
経済金融教育 宮城県・私立常盤木学園高校

巻頭 未来を描く！ 創る！ イノベーティブな生徒たち
田中心結さん 花本奈月さん（ともに高校3年生）
広島県・私立安田女子中学高校

- 44 データから考える！ 指導のnext
ピックアップデータ ベネッセコーポレーション「実力診断テスト」
- 68 Reader's VIEW

<https://berd.benesse.jp>

本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます。

印刷製本／(株)協同プレス 編集協力／(有)ペンダコ 執筆協力／中丸 満、二宮良太 撮影協力／荒川 潤、田中秀和、筒井岳彦、松原 誠、ヤマグチイッキ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 ©Benesse Corporation 2021

生徒が輝く 学校づくり

— 高校の特色化・魅力化 —

今号のテーマは、弊誌アンケート(*1)で、取り上げてほしいと要望の多かった「高校の特色化・魅力化」です。中央教育審議会で議論が重ねられていた論点の1つであったため、その影響による関心の高さと見ていましたが、幅広い年代の先生に話を伺うと、どの先生も、「少子化の進行で学校は存続できるのか」、「予測困難な時代を生きる生徒に必要な教育ができているのか」といった危機感をお持ちで、「このままではいけない。もっと学校の特色や魅力を打ち出していない」と、「特色化・魅力化」の必要性を訴えていました。そうした先生方の声を踏まえ、「特色化・魅力化」が各校や先生方にとってどのような意味を持つのか、編集部内で議論を重ね、たどり着いたのが、タイトルに掲げた「生徒が輝く学校づくり」です。

21年1月の中央教育審議会答申(*2)でも示された、「特色化・魅力化」に向けた方策の1つであるスクール・ミッションの再定義やスクール・ポリシーの策定などを通じて、生徒が輝く学校をどのようにつくっていけばよいのか——。本テーマの課題を整理した上で、3校の事例から考えるとともに、「特色化・魅力化」の先にある高校のあり方にまで視点を向けた今号の特集を、ぜひご一読ください。

VIEWnext編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 課題整理

スクール・ポリシーの策定によって、資質・能力の育成を目標に見据えた特色・魅力ある教育課程の実現へ
文部科学省 初等中等教育局 参事官(高等学校担当) 安彦広齊^{あひここうせい}
福井県立若狭高校 校長 中森一郎 / 大分県立日田高校 指導教諭 遠藤源治

P.10 実践事例1 長野県白馬高校

白馬の自然と観光業を生かした学校設定科目で、地域と連携した実践的な学びを実施

P.14 実践事例2 大阪府・私立高槻^{たかつき}中学校・高槻高校

共学化後の生徒像を見据えてスクール・ポリシーを策定。3つのコースの特色化が、新たな学校の魅力を築く

P.18 実践事例3 香川県立高松北中学校・高校

スクール・ポリシーを軸に、多様な教育活動を再編。生徒、教師、地域が活動の価値をともに理解する

P.22 本特集テーマのnext

魅力化の評価を基にしたステークホルダーの対話が、より実質的で持続可能な取り組みを築く
一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事 岩本 悠

*1 『VIEW21』次年度誌面に関する読者アンケート結果(アンケートは、2020年10月~11月にウェブとファクスで実施)。

*2 中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して~全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現~(答申)。